

東京白楊だより

第 15 号
4. 9. 10

伝統の継承と発展を期して	学校長 野田 義 成
「函館の人」よ	支部長 二上 達 也
第 15 回親睦大会報告記	副支部長 菅 原 大 作
新校舎覗きの記	副支部長 三 國 比左男
同窓会について考える	副支部長 小 林 嘉 則
第 16 回親睦大会特別講演《デザインの活かし方》	平 野 拓 夫



白楊ヶ丘同窓会東京支部

旧制函館中学校
函館中部高等学校

ご挨拶

伝統の継承と発展を期して

函館中部高等学校長

野田 義成



この度、平成四年四月一日付をもって、図らずも網走管内遠軽高等学校長より、本校への転補を命ぜられ、過日、着任致しました。昭和二十八年（第五十五期）の卒業以来三十九年を経て、母校への赴任となり、洵に光栄に存すると共に、当面する課題の解決や将来的展望に思いをいたすとき、その職責の重且つ大なるを痛感致しております。

さて、着任後の本校の教育に関する印象は、伝統校として全校的に伸びやかで明るい雰囲気の中で育まれている文化・運動の各部の部活動、知性と感性の豊かさを覚える学業活動、教師と生徒の心の触れ合いを大切にしている特別活動など、函中教育が一世紀にわたって受け継ぎ、築き上げて来た、自由闊達で進取の気性を培う活発な教育活動の伝統の重みでした。私は、この亭々たる白楊魂で象徴される美しき伝統を改めて高く評価すると共に、その継承と発展に向けて職員・生徒の意識と英知を結集するよう、微力ながら最善の努力を致す所存ですので、同窓の皆様方の特段のご支援とご協力の程を心よりお願い申し上げます。

現在、母校は、すでに会員の皆様方ご案内の通り、創立百周年の記念すべき節目の年を三年後の平成七年に控えております。明治二十八年の創立以来、本校は人間形成の伝統を受け継ぎ、知識・技能の確かな習得を目指すと共に、徳育と体育の面でもそれぞれの時代の教育思潮をとらえつつ、「不易」なる教育の真髄と、「流行」である時代感覚を適確にとらえた教育姿勢で、時代の激動を乗り越え、社会の潮流の波乱に堪えて、地域の期待を担い、信頼を受けて嚇々たる教育の実績を重ねてまいりました。このことは、本校での教育が、生徒各人の持つ能力や特性の伸長、学習レベルの向上、そして進路選択の成果などにおいて、これまで伝統校としての堅実な実績を積み上げて来たことを意味します。しかし、今後の本校の教育は、これまでのような過去の栄光や礎石にのみ寄り縋って守勢にまわることだけに終わることは許されない状況になってきております。今はむしろ輝かしい伝統という教育遺産を受け継ぐと共に、時代の変化に積極的に対応しつつ、未来からの負託に応え得る教育実践の展開と、その成果の大きいなる飛躍を図り、それによる函中高の新たな発展的将来像の構築に全校上げて取り組むべき時に至っている感を強く致します。

創立以来、一世紀にわたって地域社会の期待と信頼を受け、同窓二万六千有余の人材を輩出して来た函中高は、今や、自校で学ぶ生徒の人間形成や個性伸長の教育のみならず、地域のスポーツ・文化の興隆において、市民への公開講座や通信教育の地域教育センター等の生涯学習体系における一環としての教育機関的役割が求められております。このことは、国際化、情報化、高齢化が一層進む二世紀へ向けての社会開発を先導する知的情報センター的教育機関の機能を担うことを意味するものとも考えられます。さて、長年にわたる関係者のご尽力と同窓の皆様方のご支援で遂に実現をみました校舎改築に関しましては、現在、工事は第三期に入っております。今年度の工事としては、校舎の西側部分の特別教室（ＬＬ教室、家庭科実習室、理科教室等）と体育館及び格技場の新築が予定されております。校舎改築工事は来年度の前庭、外溝、グラウンド整備をもって完了となりますので、新校舎の落成に関する記念式典等は工期完了後の平成五年十一月末以降になるものと思われまます。只今は、第二期工事で完了した校舎正面玄関と四層からなるメイン校舎が、旧函館区公会堂のイメージと白楊の大樹を模した四本の円柱との絶妙なハーモニーにより、正面中央の金箔の校章の輝きも鮮やかに、重厚かつ華麗なる近代的な白亜の殿堂として、ここ白楊ヶ丘にその威容を誇っております。ただ、白楊ヶ丘同窓の皆様方が、かの日に、若い血潮と情熱を燃えたぎらせて、「向上の一路」を辿った一世代、二世代の校舎は、旧體操場を除いて今は幻の中にあり、資料室の空中写真でしかその勇姿を垣間見ることはできませんが、これも校歌で謳われる「なべて移ろう窮みなし流転の相」であるかもしれません。懐かしの校舎に対する愛惜の情は長しなえに尽きぬものがありますが、「限りなき流転の中に命あり不壊の学び舎」に思いを込めて、今は創立百年、来るべき二十一世紀を生きる「青春の薫

しるく基おく育英の場」としての三代目校舎の誕生に心からなる祝福をお送り下さいますようお願い申し上げます。現在、白楊ヶ丘三代目の校舎で学ぶ生徒は、平成四年度全日制普通科一学年九間口、三学年で二十七学級一千六百六十六名（男六六二、女五〇四）、定時制普通科八学級一八二名（男一一八、女六四）を数え、その指導に当たる教職員は全定合わせて常勤八十八名になります。最近の中部高校の教育活動は、両三年に及ぶ校舎改築工事のための狭隘、手狭、不便な学習環境にも拘らず比較的落ち着いた雰囲気の中で学習や部活動が行われ、その成果も平成四年三月の卒業生の大学進学（国立大合格延べ数一四三、私立大一一四、国立短大二六、私立短大二二）等によく現れており、また在校生も各種の模試等で向上の兆しを顕著に示しております。また部活動では野球部が十九年振りである地区代表となり全道大会に出場するなど、全道共に全道、全国の舞台への進出は絶えることがありません。これも一重に同窓の皆様方の母校・後輩を思いやる温かいご支援の賜物と心から感謝申し上げる次第であります。

新校舎の改築を機に、函中高二世紀へ向けての更なる飛躍を祈願し、職員・生徒共に強く期すところがありますが、今後は、百年の長きにわたって培われて来た白楊魂の一層の振起を図り、二十一世紀を主体的に生きる、創造性と実践力に富む有為な人材の育成に懸命の努力を致す所存でございますので、白楊ヶ丘同窓の皆様方の特段のご支援、ご鞭撻を今後とも賜りますようお願い申し上げます。

「函館の人」よ

東京支部長

一一上 達也



うっかりと言っか、そ、っかしいと言ったらいいか、つい東京支部長の大役を引き受けてしまったのだが、考えれば考えるほど難しい状態に陥りそうである。

事務的なことは引き受けるからと言うスタッフの甘言に乗せられて、とまで言うのはちと無責任すぎる。

活動的タイプではないが、何とか私なりに務めてみたいので会員皆様様にはくれぐれも宜しく願います。

さて今年の春は中部高卒業式に出席、七月後半には仕事上の件で函館に出かけた。

目をむいたのは卒業式におけるパフォーマンスと将棋タイトル戦に立会い役をうけたまわり、前夜祭からの流れで二次会にあてられた本町周辺のにぎわい振りである。

実のところ自身は高校卒業時の式に出席していない。棋界入門のため早々と上京していた故である。従って当時の卒業式と現在のとを比較すべくもないが、男子校が共学校に変わり、雰囲気の変化は容易に想像される。

女生徒の服装のカラフルなこと、ミニ

ありロングありパンタロンあり、矢がずりに紫のハカマを胸高に締めているとか、多分お母さんの着物を借りてきたと覚しき晴れ着を見事にこなしている。

私の職業柄であろうか、年のせいとか、やっぱり女性の和装はいいなあと思った。男子諸君にしても、いわゆるブランド物と言うのか、ニューの背広に身を固め紳士然としているし、紋付もあったが、これは極く少数である。

台上に昇り校長先生から卒業証書を渡されるやガッツポーズ、在校生からヤンヤの喝采が起ころ。

台の下近くには常に十名近くたむろして、降りてくる卒業生を胴上げしている。かくのごとく学校での式次第を終了した後、席を五島軒に移し卒業生を送る会と同時に同窓会入会歓迎会を開く。

各クラス代表者がそれぞれ得意業を披露し先生方も歌声でこたえる。私にはアルコールの欠けているのが残念だったが、これもよきかな。

中華風の御馳走が続々と出てくる。一人頭の予算二千五百円とか、支配人が卒業生なので無理を言った。しかし次回は三千円にしなくては可愛そうだと校長先生。東京だったら五、六千円は取られても仕方がない内容である。

堂高校長は今期限りで御退任され、式場に当てられた旧体育館兼講堂も取り壊しになるとか、宴が終ってみれば一抹の寂しさが漂ったのである。

ところで今回の将棋王位戦は道新主催になるもので函館市制七十周年と道新発刊五十周年をドッキングして実現したものである。

我が函中もあと数年で百周年になる。

その感覚から函館の市制七十周年とはちと奇異な感じがした。市役所の野沢収入役(私と同期)によれば特殊な事情があったとのこと。昔は北海道庁函館区であったとか、その辺の事情かと思う。(大正十一年・市政施行)

母校も私が入学した時は確か片立函館中学校であった。それが道立函館高校になり現在は間に中部の字が入っている。どのみち略称・函中で通るから、これも伝統の力か。

さて、対局場は、湯ノ川・竹葉(ちくば)新葉亭である。新築間もなく、最近珍しい和風建築で、対局には最もふさわしいたずまいである。

対局者は谷川王位に挑戦者は郷田四段。四段の挑戦者など一時は全く考えられなかった。ここ数年若年層の輩出目ざましく、八、九段より四、五段陣の實力が充実している状態だ。丁度柔道における段位と力量の具合を考えてみて下されば、いくらか理解されよう。

この前夜祭は主催関係者及び地元将棋関係の主な方々に集って戴いた。夕食会のあとはどうしても二次会になる。私は昔なじみの数名の方と盛り場に繰り出すことになった。それが前述の本町である。

ネオン輝く紅燈の港、ついおだてられてマイクを握るのは理の当然、しかしながら翌日のことも気になる。比較的早目に切り上げて帰途のタクシーに乗り込む。はたと気付けばこの辺は私が昔住んでいたところ、住宅街はどこへ行ったのか。聞くなり松風町がそっくり大移動した塩梅。

北島三郎歌う「函館の人」よどうする。

紫綬褒賞を受賞

この度、同窓会東京支部長でもある二上達也九段に将棋界における活躍と業績を賞賛、紫綬褒賞が贈られた。

氏は、昭和七年一月二日函館生れ。24年、17歳でアマ名人戦北海道代表となる。25年、二段で渡辺東一名誉九段入門。同年四段、27年五段、28年六段、29年七段、31年八段。入門から八段まで六年というスピード昇段を記録。棋風は切れ味するどく、攻めは最大の防御なりと一気にたたみかける。

棒銀を得意とし、詰将棋に数多くの作品を作り異才を放つ。37年、第12期「王将戦」、41年、第8期「棋聖戦」とともに大山からタイトルを奪取。48年11月九段。A級在位連続24年の記録を持つ。

タイトル戦登場は26回、獲得は王将1、棋聖4の5期。ほか優勝5回。A級は通算28年。57年第8回「将棋大賞」最優秀棋士賞を受賞。56年より連盟副会長。58年より専務理事兼務。平成元年より連盟会長。

平成2年3月現役引退。第16回「将棋大賞」で特別賞受賞。

趣味はゴルフ、囲碁、麻雀、小唄。カラオケは健康と不健康の両刃の剣といいながら酒が入る程にマイクを放さない。食べ物は嫌いな物なし。オムライスに郷愁を感じるという。著書に「詰将棋魔法陣」「棒銀戦法」「攻めの妙手」他。座右の銘は、「一步千金・不動心」。

白楊ヶ丘同窓会東京支部

第十五回親睦大会報告記

副支部長 菅原 大作 (65期)

白楊ヶ丘同窓会東京支部の平成三年度の「第十五回親睦大会」が、十月八日(火)午後五時より、東京・港区南青山の「東京青山会館」で、来賓及び同窓生約百五十人が出席して行われた。

今回の親睦大会の特別企画は、経済評論家・住友信託銀行調査部主管エコノミストの山村昭七郎氏に、大きく変動しつつある経済動向について「激動の世界と日本経済——加速・巡航落とし穴——」と題した講演をしていただいた。

山村氏は、昭和二十年(第四八期)、



函中を卒業。東京大学法学部政治学科を卒業後、住友信託銀行に入行し、調査部主管エコノミスト。現在、ラジオ・テレビ・雑誌などで評論活動を行う一方、政経懇話会を始め、各官公庁、大学などで経済・産業事情の講師として活躍されている。山村氏は、概略次のような講演を行った。

「昭和六十二年十月十九日の月曜日は、いわゆるブラックマンデーといわれ、世界中の株価が下がった。本日の株価は、東京の日経平均で二万四千円台であるが、それ以前の日本の株の高値は、六十二年の十月十四日の二万六千六百四十六円であり、今日の相場はブラックマンデー前の株の高値以下である。アメリカでは、二千九百ドルだが、アメリカのブラックマンデー前の高値が、六十二年八月二五日の二千七百二十二ドルである。世界で、日本は経済力があると言われているが、今日現在の株価でいえば日本はブラックマンデー前の高値を超えておらず、アメリカは逆に抜いている。

ところで、ブラックマンデーの一年前の六一年十一月に、一ドル＝二百四十円の為替レートが百二十円になった。これは、輸出したものが半分にしかならないということであり、たとえ輸出したとし

ても儲けが全く出ないという、円高不況に陥った。このため、この年のソニーや日産自動車、日本ビクターなどは営業利益は軒並み赤字となった。そこで、当時の竹下首相は、日本の景気を押し上げるために四兆円規模の景気対策を講じ、その結果、六十二年の民間住宅投資は対前年比二六%増となり、これに伴って建築資材を製造するため企業は設備投資を行

った。また、機械受注も二〇から三〇%もの増となった。こうした経済投資が出てくるとそれが所得効果となって、勤労者の収入が多くなり、その結果自動車の売上げが前年より二桁伸び、デパートの売上げも前年比二桁以上の伸びがみられるようになった。そして、日本の経済成長率は、六一年が二・九%だったものが、翌年は四・九%、その次が五・八%、四・八%、そして一九九〇年度は五・九%というすばらしい成長率になった。この四年間に日本経済は実質で三割増え、物価上昇を含めた名目でも二五%が、企業やわれわれの家計でも増えたことになる。これはまさに「絶対調景気」であった。

しかし、「絶対調景気」とは言え、車で例えれば、高速道路を快適に飛ばしている状態だが、当然歪みも来る。その一つは、人手不足の問題で、百四〇人の人が欲しいのに百人しか集まらないという状況になり、また、デパートの売上げも、機械受注や建設工事数、自動車の販売台数も前年比べてマイナスに転じ、やや減速傾向になってきた。しかし、今までの日本経済は、車の持てる能力一杯のフルスピードで走ってきたため、アクセルを少しゆるめ、最も燃費の良い巡航速度で走るようになってきたと考えることも

できる。最近の経済の減速傾向は人手不足などのいろいろな問題を解決する上で絶対の機会であると考えている。

ところで、今回の好景気は、六一年十一月から始まり、今年の七月までで五六カ月間続いている。これは昭和四〇年十月から四五年七月まで続いた「いざなぎ景気」の五七カ月に匹敵することになるが、こうした好景気がなぜ日本で続いたかという点、その理由の一つは石油が安かったことにある。現在の石油価格は、一バレル・二三ドル前後である。昭和四八年の第一次オイルショックで、一バレル・一五ドルとなって高いといっていたが、当時の為替レートは一ドル・三百円で一バレル・四千五百円であったのに対し、現在は一ドル・百三〇円であり、仮に一バレル・二〇ドルとしても三千六百円輸入しており、オイルショックの時よりも石油は安くなっている。

また、日本の低金利が、景気を上昇させるのに大いに貢献した。これまで最も金利が安かったのは昭和五三年四月で、公定歩合が三・五%、一年定期預金が四・五%、国債が六・一%であったが、平成元年の春までは、公定歩合が二・五%、一年定期預金が三・三九%、国債が三・九%から四%だった。これは、世界で最低であり、日本でも史上最低の低金利であった。この低金利政策が、日本経済を「絶対調」にさせ、企業経営をすばらしくさせたが、その一方ではふくらみ過ぎた経済を破綻させる原因にもなり、その反動の兆候も見えている。

さて、日本の株価は、非常に高いが、一株あたり百円儲かっている会社の株を、海外では高くても二千円程度で買うが、



これを日本ではNTTに代表されるように七、八千円で買っている。ところで、昭和六二年十月十九日月曜日、いわゆる「ブラックマンデー」に、世界中の株が暴落してニューヨーク・ウォール街では五〇八ドル下がった。そして、金額にして一兆ドル下がった。この一兆ドルという金額は、日本の瀬戸大橋の百本分に匹敵し、当時の世界中の軍事費の合計額と同額である。日本の防衛費は瀬戸大橋三本、アメリカの国防費は三〇本だが、この数字が湾岸戦争の時の多国籍軍の費用百二十数億円の算出基礎となった。

一方、ソ連の軍事費は、アメリカと同額と考えてよいが、経済的には日本よりずっと小規模である。そのソ連が日本の十倍の軍事費を使っているため、最近の核削減問題や軍縮の方向などを歓迎しているのはこうした経済破綻も原因している。ソ連という国は、共産主義であるために税金が集まらないシステムになって

いるが、共産党員は役人なので税金を納めなければならぬ。税金を納めるためにお札の増刷を行っているが、今年になってからのソ連の通貨供給量は、過去五年分と同額である。今年八月のクーデターの前までのソ連の経済成長率は、マイナスイクから一五%、物価上昇率は百%だが、クーデター後は経済成長率マイナス二十から二五%、物価上昇率千%となっている。ソ連は、市場経済化を計ろうとしているが、そのためには二十年から三十年かかると思われる。

昭和六二年十月十九日のブラックマンデー一日で、株価が瀬戸大橋百本分下がったが、日本ではこの半年後の六三年四月第一週にブラックマンデーの前の高値十月十四日の二万六千六百四十六円を抜いて三万一千四百円となり、その後もどんどん上がって一昨年は三万六千六百三十三円、そして年末の大納会の際には三万八千九百五十五円となった。これはどのような意味を持つかというと、日本の株価の回復だけで全世界のブラックマンデーの株の損失をすべて埋めたことになる。日本の株は、持ち合い制だから、土地などの資産を持っていくから高くても良いという意見もあるが、ここで日本の土地問題について少し触れてみたい。

一例を上げると、七年前百億円だった土地が三年前が三百万円、現在は二百万円になっている。従って、三百万円で仕込んだ業者はすべて倒産している。では、土地が下がったのかというと、七年前が百万円で今が二百万円だから、この七年間では年平均十%もの高率で上がっており、決して下がったわけではない。ところで、現在、問題になっている新

土地保有税（地価税）と不動産向けの総量融資規制は、日米構造協議の際に、アメリカ側から「東京の土地が高く、事務所も持てない」という意見が出され、それを受けて導入された。この時に、アメリカが持ち出した具体例は「日本の土地は、アメリカの四%、二五分の一に過ぎない。これを日本の土地で置き換えると岩手県に匹敵する。そして、東京圏は、盛岡市程度の、いわば日本地図上の点に過ぎない。この点の中に日本の土地のすべてが入ってしまう」と述べた。これが、いわゆるバブルである。

最近、好景気が五七カ月も続くかとも思われているが、金の面でみれば経済そのものは五〇カ月の手前で曲がっていると考えている。しかも、証券、銀行等のスキャンダルという問題も出てきた。

そこで、今後の株価をどうみるかという、金利が多少下がっても、企業の計上利益は、営業利益と営業外利益があるが、このうち営業利益は横這い状態であることは望めず、営業外利益の株と不動産も収益が上がらない。従って、企業業績の回復は期待できず、株価は上がらないと予想する。」と、世界情勢から日本経済について、多くの例を上げて分析して今後の方向について述べ、聞く人に感銘と示唆を与えた。講演会場には、約八十人が出席、熱心に聴講した。

山村氏の講演の後、会場を代え、六時より、大会と懇親会に入った。大会は、第六九期・高木隆氏、第七五期・桑原洋子さんの司会のもと、最初に第五二期・高橋良一氏が開会を宣言して開会した。次いで「函館中学校校歌（同窓会歌）」を全員で合唱し、雰囲気

り上げた。その後、支部長の第四八期・篠田作衛氏が「この会には、大正十一年卒業の方から、一番若い人では昭和六十年卒業者が出席している。また、住居や職業も様々な方々にお集まりいただいた。本日は、年代や仕事などの垣根を越え、学生時代に戻って共に昔のことを語り、交流を深めていただきたい。」

現在、母校では校舎の新築工事が始まり、またまもなく創立百周年を迎えようとしている。その創立百周年記念には、後輩諸君の教育環境を整える事業が進められつつある。東京支部としても協力を考えているが、皆様にもご協力をお願いしたい。

夜景の素晴らしい郷里・函館は、観光旅行者が非常に増え、また北方領土の返還を契機として、市政及び産業界も活況を呈しつつある。しかし、環境に恵まれていることが、逆に作用して旭川や釧路などに少しずつ追い抜かれつつあるように思われる。私は、郷里・函館を盛り上げたいと考えているが、ご出席の皆様にもお考えいただくと同時に、今夜はあずましい一時をお過ごしいただきたい。」と、あいさつを行った。

次いで、来賓の函館市東京事務所・岩船寛所長、佐藤弘明副所長、白楊ヶ丘同窓会・関輝夫副会長（楊燈会々々長）、奥平忠副会長（函館支部副支部長）、守下光越事務局長をそれぞれ紹介。このうち来賓を代表して、関副会長が「母校百周年記念事業へ向けて函館の本部同窓会では全力を傾けているが、皆様のご協力は欠くことができない。よろしく願いたい。また今後の東京支部の一層の発展と皆様のご健勝をお祈りする。」と祝辞

を述べた。

また、岩船東京事務所長は、函館市の最近の状況について「函館市は、非常に厳しい財政状況にあったが、財政再建五カ年計画を実施したところ、四カ年で再建できた。また、累積赤字も昨年で解消し、市の財政はかなり前進した。一方、函館市の観光客は、飛躍的な伸びをみせ、昨年は四百六十万人。今年は五百万人を突破するものと思われる。市の東京事務所は観光業務のみならず、企業誘致も大きな仕事の一つとしているが、白楊ヶ丘同窓会の皆様方によるしくご協力をお願いしたい。」と述べ、さらに木戸浦函館市長からの祝電「白楊ヶ丘同窓会東京支部大会のご盛会を心からお喜び申し上げます。日頃より皆様には企業誘致についての情報提供など函館市政発展にご尽力たまわり、厚く御礼申し上げます。今後とも二十一世紀へ向けた活力と潤いのある郷土・函館の建設のため、努力する所存ですので、皆様のより一層のご支援、ご協力をたまわりますようお願い申し上げます。貴会の今後ますますのご発展と会員皆様のご多幸をお祈り申し上げます。」の披露を行った。

この後、第五四期・杉田博子さんと第六九期・吉田淑子さんの音頭で乾杯し、懇親会に移った。

会場内には、例年と同様に、函館市東京事務所から寄贈された函館山からの夜景や函館市近郊の景観などをデザインした観光ポスターが多数貼られて、雰囲気盛り上げたほか、函館近郊・七飯町の「函館ワイン（市寄贈）」なども豊富に用意された。

そして、一年ぶりあるいは久しぶり振りに

顔を合わせた会員間で交流が行われ、会場内の随所では懐かしい函館弁が聞かれるとともに終始和やかな雰囲気にも包まれていた。

会員間の交流も一段落した後、篠田支部長が再び壇上に上がり、三年間の支部長任期の終了のあいさつと次期支部長の第五二期・二上達也氏（日本将棋連盟会長）を紹介した。二上新支部長は「多くの方々の推薦を受け、支部長に就任することになった。微力だが、皆様のご協力を得て任期を全うしたい。」とあいさつした。

また、開会から一時間程遅れて到着した堂高栄治函館中部高等学校校長は「東京支部の皆様には、物心両面にわたるご支援をいただきありがとうございます。学校は二年後の新校舎の落成、五年後の百周年に備え努力をしているが、今後とも皆様のご協力をお願いしたい。」とあいさつをした。

宴が最高に盛り上がった頃、ここ数年の恒例となっている寄贈品の抽選会に移ったが、今回も同窓会特別賞として北海道産のジャガイモを産地より自宅へ直送するという目玉商品が用意されたほか、約百点もの洋酒やテレホンカード、雑貨などが準備され、賞品が当たるたびに会場内には歓声が上がった。

抽選会の終了後、第四三期の井筒吉彦氏が閉会のあいさつを述べ、大会の最後を締め括る函館中部高等学校校歌「火柱のはためく峰も……」を全員で合唱。次の再会を約して、午後九時過ぎ終了、散会した。

函中創立百周年

記念事業推進の動き

函中は平成七年に創立百周年を迎えることとなりますが、その記念事業の成功に向けて、協賛会が設立されました。これまでの準備の経過は次のとおりです。

平成二年十月二十五日

記念事業に関する懇談会開催

同窓会・PTA役員・現旧函中職員

合わせて二十一名出席。

特に、同窓会関係では、藤岡同窓会長をはじめ、近藤函館支部長、三浦札幌支部長、井筒東京副支部長などが出席。

平成二年十一月五日

協賛会設立準備委員会発足に向けての協議会開催

同窓会からは、近藤函館支部長、犬

島幹事長が出席。

平成二年十二月十一日

創立百周年協賛会設立準備会設立

同窓会からは近藤函館支部長、三浦

札幌支部長、篠田東京支部長など十一名出席。

百周年記念事業を校舎改築落成記念事業と別に行うことで一致。

平成三年一月二十二日

創立百周年協賛会設立準備委員会発足

準備委員長に近藤函館支部長を選出。

協賛会々々則原案の検討および総会の日程決定。

平成三年一月二十八日

準備委員長・副委員長会議

協賛会々々則の原案作成

平成三年二月四日

第二回委員長・副委員長会議

協賛会役員・記念事業計画の原案作成

平成三年二月十八日

最終準備委員会開催

協賛会設立総会の原案決定

平成三年二月二十七日

函中百周年記念協賛会設立総会開催

道内外からの同窓会ならびにPTA、現旧函中職員に合わせて百名近い出席者により総会が開催され、藤岡同窓会長を協賛会長に選出。

北海道函館中部高等学校
創立100周年記念協賛会事業計画
寄付金目標額 80,000,000円

科 目	予 算 額	備 考
総務費	会議費	300,000円 役員会、理事会
	通信運搬費	500,000 電話料、郵便料、車借上料
	庶務費	1,000,000 趣意書、案内状等印刷費
	事務費	600,000 事務用品、その他
	計	2,400,000
行事費	式典祝賀会費	2,000,000 会場使用料、招待者祝賀会費
	記念行事費	1,000,000
	表彰費	2,800,000 感謝状、記念品
	招待者旅費	500,000 招待者旅費、宿泊費
	計	6,300,000
事業費	記念誌費	10,000,000 百年史、パンフレット印刷
	記念誌編集費	500,000
	同窓会名簿費	5,000,000 同窓会名簿作成費補助
	施設設備整備費	32,000,000 窓室新設、記念碑等他
	特別事業費	20,000,000
計	67,500,000	
事務局費	2,000,000 旅費、振込手数料、筆耕料	
予備費	1,800,000	
合計	80,000,000	

新校舎覗き見の記

副支部長 三國比左男（51期）

6月27日開催の札幌支部第12回総会に二上支部長の代理として出席の帰途、函館に立ち寄り、新築中の母校を覗いてみた。

函館山をイメージしたという正面メインの建物と向かって右側の教室群が既に出来上がっている。校舎の外側に回って裏側に出てみると

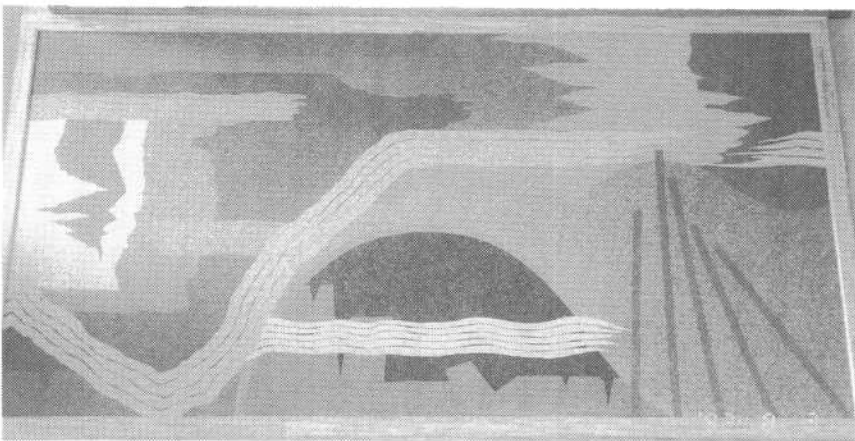


昔懐かしい雨天体操場はまだ壊されずにあったが、その向こうはすべて整地され、広々としたクランドとなっている。

正面に戻り、思い切って玄関の扉を押してみようと鍵が掛かってなく無断侵入。生徒がここから入るらしく靴箱が整然と並び、ご丁寧に傘立てでもある。そしてその奥は2階までの吹き抜けのホールで、ソファが並び片方の壁面には『白楊画会』の手になる抽象画のレリーフがあり、その奥に売店、飲料の自販機、公衆電話、優勝カップ等の陳列棚があって生徒達がくつろげる空間となっているが、レリーフの真向いの壁面には函中らしく、テストの成績ランク表がズラリと貼ってあり、生徒の憩いの場には相応しくないようにも見受けられた。



一番近くの教室に入ってみる。1クラス50人、教壇の横には石炭ストーブという昔の教室とは雲泥の差、40人のこじんまりした教室、冷暖房の設備が付いている。おまけに「黒板拭き」を掃除する道具まである。昔は掃除当番が屋外に出てパンパンと叩いて奇麗にしていたのに。今は過渡期で、教室の遣り繰りが大変らしいが、全部出来上がったらこんな快適な学び舎はないだろう。夢ももう一度、学業にスポーツに名門函中の名を轟かせてくれるのも間近いことを念じて母校を後にした。



年会費納入のお願い

当支部の運営は、会員の皆様に納入いただく年会費で、ほとんどが賄われています。

年々納入額が増えておりますことは、皆様のご理解とご協力の賜物と厚くお礼申し上げます。

本年も、「郵便振替用紙」を同送いたしましたので、年会費をお振り込み下さいますようお願い申し上げます。

なお、10月15日開催予定の大会当日に、会場でお支払い下さっても結構です。

東京支部会員名簿について

懸案の東京支部会員名簿が、有志の広告料（五一七万円）により賄われ、完成しました。

二千五百部作成し、広告掲載者および名簿希望者には送付済みですが、若干予備がありますので、ご希望の方には総会当日、一部五百円で頒布いたします。

名簿希望者に送付済の分は千五百部で年会費のお振込の方が八百余人というギャップが残念です。年会費のほうもよろしく。

同窓会について考える

副支部長 小林 嘉則（63期）

時は流れ……忙しい日々の中で、

ふと我に還った時

鮮烈に蘇えるあの日、あの時。

想い出とともにうかぶ

ふるさと、母校、恩師。

過ぎゆく歳月と

ともにゆっくりと

温めたいなつかしき

人の触れ合い

明日のために……

冊子「絆」の一文より引用

「四十を超えると、高校時代の仲間がやけに懐かしくなっている」という声をあちらこちらで聞く事が多い。

我々も63期の卒業生として同期会が開かれたのは昭和58年の事でちょうど10年になります。その年の10月21日に開かれた第七回の同窓会に久しぶりに出席したところ、それこそめずらしく七、八名も集まり、二次会に流れて気炎あがるうちにもっと仲間を呼ぼうという事がキッカケで始まって以来、一年毎に積み重ねて築かれた友情が大きく育っておりま

す。しかし、同期会が充実すればする程、同窓会に出てくる人は少なくなり、時には評議員を担当する二名だけという事もあり、同窓会活動に献身されている諸先輩に申し訳ない気持ちでした。

「日本のサラリーマンを指して、世間では仕事人間というけれど、本当は同窓人間と呼ぶべきではないでしょうか」という記事があり、経済紙に連載されている著名ビジネスマンの交遊録を手掛りに統計をまとめたところ、付き合っている友人は「同窓生」が最も多く、30%を占めたそうです。ビジネスマンといえども、

人脈の原点は「仕事仲間」ではなく「同窓の友人」だったというわけです。こうしてみると仕事の上での活用も大事な要素ではありますが、趣味を通じての先輩・後輩の交流も又楽しいものがあると思います。高校時代のクラブ活動ではありませんが、いろいろな会が

あって年に一回のハイキングで老いも若きも一緒に歩いたり、絵を描く仲間の集まりがあったり、先輩の中には有名な画家もいらっしゃる事ですから……。要は同窓の仲間たちがより親睦を深める為の場を多く持つ事が重要な事と考えます。

三年間を共にした同期の仲間との付き合いと基本的な違いは、先輩の指導を仰ぎ、後輩の面倒を見るという姿勢の問題があるのではないのでしょうか。函館という風土、函中という校風の中で共通事項が多々ある事が初対面にして近親感を呼び、ある種の信頼感が無言にして在る事は、そして一朝一夕では築き得ない人間関係を作れるという事は、それは函中高の長年の歴史が与えてくれているのではないのでしょうか。

同窓会各会員が同窓会の中で発掘すべき「宝もの」……それは「人」です。第二の目的は「母校」への思いの問題です。卒業以来校舎を訪ねる機会もなく、いや人によっては二度と近付きたくない

人もおられるかもしれませんが、明暗夫々に思いのちがいはあれ「懐かしき校舎」で過ごした青春は消え去る事はないのです。いつの時代でも勉学の道は楽しいものではありません。苦しきことのみ多かりし青春は、喉元を過ぎれば、それはその人を形成する一服の清涼剤となり苦しみを乗り越えてきた事が大きな「力」となっていくのではないのでしょうか。そういう葛藤の場を与え、育て、そして前へ進ませてくれた母校を思う気持ちを大事にしてこそ同窓の意義があります。速くはあつて、母校の活躍振りを知ることが実に嬉しい事であり、それを自慢出来るならば楽しさは一層のものです。母校を応援する気持は同窓の仲間に変わりなく、益々の発展を望む気持ちも一体のものです。その為には同窓会が成すべき事は、母校の近況を正確に伝え、発展に寄与できる様々な支援を同窓会が持つ組織力により行う事が第二の目的ではないのでしょうか。

○同窓会の目的

同窓会が存在する意義を考えたい場合、第一は会員相互の親睦を深めるというのが大きな目的ではないでしょうか。

高校入学と同時に二、三年生の先輩が存在し、少なくともその当時は大変な大人に見えた記憶がありますが、クラブ活動等の交流の中で良きも悪しきも教えられ成長していったわけです。数の中には先輩とは思いたくない様な人も居た事もありましたが、今に至っては只々懐かしき人々です。同じ様にして自分が上級生になった時には二、一年の後輩が居り、その交流も又それなりの意味を持ち、前後五年の人脈を持っているわけです。又その他に家が近かったとか、兄弟、姉妹を通じての知り合い等々、夫々の共通認識が親しみを増して交流が深まるのは、社会が人間関係で成り立っている事を考えれば大変な意義ある存在であると思えます。

○同窓会の活動

第一の目的、「人」が「人」に会う為には、親睦の場をより多く提供する事が同窓会の仕事でもあります。年に一回とはいえ二〇〇名からの同窓生が一同に会するのは、やはり大変な事業であり、それに向けて一年間コツコツと準備をしている事務局は、同窓会の何たるかを理解し得ないで出来る事ではありません。会員相互の理解と支援が大きい程に報われ、それだけに喜びも倍加するわけです。同窓会の活動は同窓会の運営の為に行われているのではなく、会員の為の活動である事を会員個々が認識しなければ

ならないと思います。

同窓会や同期会の活動をしておりますと、「好きだねえ！」と良く言われます。そうです！好きでなければとてもじゃないけどやっておれません。仕事の合間をぬっての内はまだ良い方で時によっては仕事を中断してやらなければならぬ時もあります。何の為にやっているのでしょうか。自然の内にかかわってきた事ですからあまり自問自答した事はありませんでしたが、こうして「同窓会について考える」を書いていくうちに段々見えてくるのではないのでしょうか。

さて、親睦の場を提供する事が仕事のひとつとしてあるならば、その事の準備に掛る労力は結構大変なもので、代々いろいろな諸先輩が足掛りを作って下さっていたとはいえ、又夫々の役割で負担を軽減させながらも常にあれもしなければ、これもまだまだと心残りをさせているのは精神的にも重いものです。

日程、場所を決め案内書や会報を作り評議員宛に発送し、評議員は期の会員に配布し、返信をもらい、まとめて事務局に報告し、そして当日の大会にそなえていくのはボランティアとはいえ仲々大変な事のように思います。

そういう準備を経て会員がつつがなく再会を果たし、交流が深まるのを目の当たりにすることが出来るのは大変うれしいことです。年に一回の大会だけでは同期会の延長の様なもので、期を越えての交流などそんなに深まるものではないよ、というお声もありそうですが、確かにその通りで若い期の方には特に自分たちの同期会そのものがまだまとまっていないうけですから無理もないと思います。

期にこだわらない交流の原則としては先に述べた先輩の御指導を仰ぎ、人生の先達した部分に共感があればこそ成り立つのではないのでしょうか。

共にふるさとを語り、共に校歌を歌い、共に母校に思いをめぐらし、共に酔うことが出来るのは誰とでも出来る事ではない特別な関係ではないかと思えます。

たまたまではありませんが、私の期の63期は当時の担任教師が11期先輩に当たっており、その恩師を囲むゴルフ会をやっているのですが、この度いろいろな縁が深く、共通の話題が多いものだから合同のゴルフ会をやるとういう事になり、52期と63期のコンペを九月初旬に開く事が決まりました。これも同窓会ならではの交流でありまして、これをキッカケにして他の期の方々にも参加していただける様なゴルフ会の開催を提案したいと思うのですがいかがなものでしょうか。

こういう会はゴルフばかりでなく、釣りの同好会、ハイキングの会、又東京支部の二上支部長は将棋連盟会長であるわけですから将棋の会や囲碁の会があっても良いのではないのでしょうか。

いづれ御賛同の方々の声が集まり次第実施出来たら、それこそ期を越えた交流が芽生えていくのではないかと考えます。第二の活動としては母校への寄与と協力として何をなすべきかという事です。

母校の近況等を知る手掛りとしては、函館支部から発行されている「白楊ヶ丘はこたて」と同窓会本部から発行されている「白楊だより」で十分知る事が出来ます。函館本部は当然の事ながら本校と直接の関係を持ち、地方支部の「要」であり、現在平成七年に迎える「創立百周

年」に向けて協賛会が設立され、東京支部からも随時役員会に出席して居るところであります。(五頁参照)

ふるさとを離れていますと母校との接点もなく、そして学校の施設等知る由もありません。しかし現在の校舎が昭和30年に建てた三年後に入学した時は、まだまだ新校舎の空気が残り、体育館の立派さにクラブ活動への意欲に燃えたものでした。

又昭和60年の創立九十周年記念事業として購入された「白楊ヶ丘会館」は生徒のクラブ活動の合宿やOBの会合等に使用され大いに役立っている様です。

こうして在校生の為の教育環境の整備は、今後の母校の発展となり、スポーツでの活躍や文化活動の充実を生み、まして人格形成の一端に結びつくならば、同窓会の側面的役割の果たす意義は大きいと思われまます。

正確な数字はともかく、二万人は居ると思われる同窓会員が、一人三、〇〇〇円の寄付したとして六千万……。仮りの話しとしてもこの組織力は大きいに役立つしたいものです。

参考までに全国の同窓会活動の実態を見てみますと、

- 一、総会開催については、毎年60%。
 - 二、会報発行については、年一回14%、年二回4%、発行していない78%。
 - 三、名簿発行、五年毎34%、十年毎57%、発行していない4%。
 - 四、会費の納入、終身会費68%、年会費17%、入会金のみ7%、その他8%。
 - 五、同窓会館がある6%、ない94%。
 - 六、事務局専任者が居る4%。
- 主な項目だけを比較してみても白楊ヶ

丘同窓会については、充分活動していると思われまます。又学校内に同窓会事務局を持つ本部と地方の支部とでは活動の範囲も違ってきますが、東京支部では今年三月、支部用の名簿発行を果たし、会員相互のネットワークに大いに役立っています。今後は更に各期の評議員に夫々の期の充実を計ってもらう事に依り、もっとしっかりした名簿が完成する事になると思われまます。

又先程の実態調査でもお分かりの様に事務局専任者が居る会は4%ということからみて、ほとんどの会が会員の選任による協力者に依存しているわけですから、東京支部の場合も事務所そのものが、個人の提供で無料使用させていただき、電話の受付連絡等も含めて大変な負担をおかけしているのが現状です。

現在会員にお願いしている年会費は二千円、振込みをして下さる会員は、昨年の場合約八四〇名で一六八万、約25%の会員に依って成り立っているわけです。せめて千人で二〇〇万、三〇〇万の増加でも事務所経費が出るのではないのでしょうか。何やら世知辛い話しになってしまいました。こういう事は会員個々の関わりと認識の問題で、お願いする様な事でもないかもしれません。

同窓会そのものが会員にとって必要なものであり、そして心の拠りどころになってほしいと願う一会員の「同窓会とは何ぞや」という考察の結果です。

皆様の思う「同窓会」とは……が来年に向けて御意見を伺う事が出来れば幸いです。同窓会の在り方や精神的な位置づけ、実際の運営について多に語られる事を期待したいと思います。

各期だより



銀楊会 (第34期・昭和7年卒)

平成三年九月三―四日函中銀楊会(第三十四回、昭七卒)の三十余名で奥尻島へ一泊旅行をした。私は三日早朝食事抜きで羽田空港へ駆けつけ、最初の便(それすらやっと手に入れた)に乗る始末だったが、とも角函館駅前のバスへ辿り着いた。遠くから名を呼びかけられ、「よく来たな」と握手をされた時は、「参加してよかった」と喜びがこみあげた。やや体調を崩し、航空券の入手も至難事で諦めていたが、直前になって幸運に恵まれた。執念のなせる業か、幹事諸氏の友情の結実か。

懐かしい江差で昼食をとってフェリーに乗船、バスの中に続いて級友達と話に花を咲かせているうちに奥尻港へ到着。お互トシがトシだから身体がやや不自由な人もいたが、中学生に戻ったような雰囲気は横溢した。

鍋づる岩の奇景に目を見張り、北追岬公園では三百名近い国後島から引き揚げて来た人びとの望郷の想を偲ぶなどそれ

それに物語のまつわる所を訪ね、賽の河原、宮津弁天宮等遠望に止まった所もあったが目一杯バスを活用した。

神威脇温泉では事前の準備なく入浴となったので、丹前だけは羽織だったが、その下はズボンに皮靴などという珍景が続出、カメラの好材料とも思えたが武士の情かシャッターを押した人は目につかなかった。

夜は驚く程イキのいいイカサシを始め都会では望み得ない見事な海産物が大量に並び、素朴で親切な女性達に酒をすすめられて歌ったり、踊ったり、文字通り歓をつくした。私の郷里大野でいう「盆」と正月が一度に来た」ようなものだった。翌日開陽丸の艦内を見学するなどのオマケもつき、正に不足のない旅だった。帰路の船内でもバスの中でも話はつきなかつたが、市之渡の神社の傍で皆さんに別れ、郷里へ立ち寄った。

生家に程近いお寺の銀杏の巨木は既になく、市之渡の神社は鳥居共ども新築され、国道筋にカヤぶき屋根は見られなかつた。

しかしわが家の裏の畑から田圃へ出て駒ヶ岳や横津岳を遠望し、大野川の流れをみつめて中学の頃まで川向こうへ行くには徒渉するしかなかつたことなどを思い出おこすうちに、故里の懐に抱かれているような感懐を覚えた。

(大原孫七記)

函八会 (35期・昭和八年卒業)

平成四年六月三日、東京大手町の永楽クラブで開催。及川広造君の音頭により一同乾盃、次いで幹事より会員の近況報告、就中、昨年開催後、上田一郎君、宮本武雄君の訃報に、一同冥福を祈念した。この会には、毎回必ず遠く遙々、新潟

より佐々木孝允君、奈良から新田義圓君が出席され錦上添花を添えている。

会員の殆んどが、既に喜寿を過ぎていたので、集会は昼食会にしているが、一同談論風発、時の経つのも忘れて、談笑が会場にあふれた。

会合も終わりに近づき、岡崎弘君より

「来年(平成五年)は函中卒業六十周年になるので、北海道や各地の同期生と一緒に、思い出多い函館の地で集りたい」と提案があり、一同これに賛成し、その後神戸の加藤敏雄君や函館の同期生とも連絡し開催する運びとなった。

さて今回の会合も予定時間となったので一応閉会して、別室に移り殆んど全員が残り、再び談笑し、来年の会合を楽しみにして、再会を約し、午後三時に解散した。

当日の出席者

及川広造 大野寿夫 岡崎弘 岡田秀穂
佐々木孝允 杉沢新一 新田義圓 福村虎治郎 松本弥一郎 松丸秀夫 吉村栄司 藪越甲平 以上十二名

(藪越甲平記)

「よんまる会」(40期・昭和13年卒)

齡古希を過ぎると、多くは老夫婦二人だけのわび住まい。暇をもて余していながら、体調を崩して同期会に参加できない者が多くなってくる。そんなことから、わが「よんまる会」は毎年、函館・札幌・東京の持ち回りで大会を開催することにしている。

今年も東京が当番で、会場を伊豆下田の蓮台寺温泉で五月十九日に開催した。集う面々は、北海道勢十五名、東京勢十三名、内夫婦同伴は四組総勢二十八名である。残り少ない生存者(一二二名)の二〇%に当たるから盛会といふべきだ

ろう。はるばる札幌から来てそのまま帰したのでは疲れただけなので、翌日は横浜に一泊、新装横浜市内を散策し、夜は中華料理の大晚餐会。東京の新顔五名も加わって喧々諤々、若さを誇示して二泊三日にわたる同期会の幕を閉じた。

(相馬正樹記)

高楊会 (第42期・昭和15年卒)

去る六月十六日、第六回の高楊会函館大会が函館の湯の川グランドホテルで開催された。

この大会は古稀記念の総会を兼ねたので、出席者数五十二名の多数に及び、今までの最高の出席率となった。

開会の辞のあと、七十三名の物故者の追悼回向を行い冥福を祈った。次いで記念撮影、祝宴、自己紹介、校歌斉唱となり盛況裡に終わった。一泊後次回は平成七年、函中百周年にあたるので、再び函館で開催する事を決め、三年後の再会を約し解散した。

(菅原茂夫記)

初の札幌開催 (第43期・昭和16年卒)

現在第43回生は地元函館に四十二名、札幌を中心とした道内に二十五名、本州に六十九名住んでいる。

従来全国の同期会は、函館と東京の交替で毎年開催してきたが、今年が初めて札幌が名乗りを上げ、六月二十日中島公園傍らのホテルアカシアで開いた。

夫人同伴は今年も少なく二名であったが、全部で三十四名の出席を見て午後六時から九時まで約三時間の宴会であった。昭和十六年卒業以来五十一年ぶりという仲間がかなりいて、入口で「彼は誰だったっけ?」との声は何回聞かれたことか。そのうちに次第に昔の出来事が

思い出され、話が弾んできて、座は盛り上がり、「明日どこかでまた会おう」との約束が交わされていた。

昭和十一年から十六年までの暗い社会情勢の中、青春の年代の五年間の同窓生活が、いかにわれわれの心に深い絆を植え付けたか、よく分かるとういものである。

六十名の死亡者に黙祷を捧げ、函中校歌（同窓会歌）を斉唱して散会したが、その後ロビーで話す四、五人、薄野へ繰り出す数人が見られたのもうなずける。

来年は函館で開催となるが、今度は何人の顔を見られることか、自分も含めて健康に注意して、また元気に出席したいものである。（井筒吉彦記）

翠楊会（第45期・昭和18年卒）

翠楊会は函館に本部、東京と札幌に支部があり、東京支部には六十余名が登録されている。平成三年度は十一月七日夜青山のNHK寮で開催、二十八名が参会。函館本部から福士長蔵君も出席して、忽ち五十年前の懐旧談に花が咲いた。殆ど全員が第二の勤めも卒え、悠々の余生に入っているが、病を得て欠席する旧友が次第に多くなるのは淋しい。

翠楊会には、何故かしら同窓会活動に熱心な者が多く、白楊ヶ丘同窓会の三河前会長、藤岡現会長、犬島事務局長、池田元東京支部長等があり、故中村力元校長も同期であった。

翠楊会総会は函館、時に札幌、稀に東京で開催している。今年の総会は札幌で開くが、来年迎える卒業五十年を記念して全員が執筆する記念誌の発刊、戦争でお預けになったまま、五十年遅れの修学旅行が主なテーマとなる。

（田沼修二記）

◎第47期（昭和20年前期卒）

47期にちなんで例年四月七日を定例同期会を開いています。

今年も、吉田治作さんのお世話で、有楽町ニュー・トーキョーで開催しましたが、多忙のなか二十三名が参集し、昔話、今の話に花を咲かせていました。

当初は、健康を考慮し（敢て年齢は伏せた）喰べる方も、飲む方も控えめになっていると勝手に考えていました。（幹事の早とちり）

参集の皆さんは、元氣一杯で、話がはずんでくると、つついとお酒の方が足りなくなり追加。

今回名簿に厚谷欣一、水口繁、古田嘉宏の三氏を追加しました。成田庄司氏は尼崎から毎回出席していましたが、今回は転居の札幌から元氣な顔を見せてくれました。

病床から今年も同期会に出席したいと洩らしていた村山俊郎氏は三月末に鬼籍に入れられました。ご冥福をお祈りします。篠崎昭彦氏は本年藍綬褒章を受けました。

（松村豊記）

東楊会（第48期・昭和20年卒）

今年「東楊会」の根城とも言うべき銀座・安具楽・五合庵に於いて、四月十八日土曜日、平成四年度、東楊会が開催された。幹事篠原篤君の司会で①開会のこと②物故された方々への黙祷③本会友の動静報告④上河睦美君同期会代表幹事の函館近況並びに年一回発行の同期会誌「中庭」の内容説明、特に、投稿を受けて掲載出来なかった分の謝罪、同期会費の納入催促等々であった。彼も一生懸命やっているよね！一般的評価である。

◎愛知県半田からかけつけた。加納俊夫

先生と千葉県在住の米田栄一先生75歳のご挨拶◎平成四年度の幹事紹介、渡辺崇・

間山郁三両君の決意の程の、一言◎北海道積丹郡積丹町から、かけつけた町長中谷文義君の乾杯の音頭◎近況自己紹介◎

歓談懇親◎校歌斉唱。松木養三君の筆字になる。（）玄冥の北の一道、関門の岸に臨みて、青春の薫にしろく、基おく育英

の場……を、時々見ながら（五）番まで声高らかに全部歌いあげた。◎常任幹事渡辺丞二君の閉会のことは◎中村四郎君の『三本』で、来年の再会を約して無事解散となった。当日の出席者は、

米田栄一先生・加納俊夫先生
小野駿一・上河睦美・清野 清
小坂逸郎・坂本浩美・篠田作衛
篠原 篤・武田好司・谷藤芳雄
田端英一・田村庸一・中村四郎
中谷文義・野田史郎・橋本寛治

浜中孝平・本庄登志彦・松本養三
間山郁三・山科喜一・山村昭七郎
四ツ屋久利・渡辺丞二・渡辺 崇
以上26名
でした。

クラス会は、『俺とお前の語り』が出来るところに最高の楽しみとメリットがある。私も健康である限り出席したいと思っている。

俳句 2句（しゃらの白い花）
○薄日もれ葉蔭に咲けり夏椿
○溪流に指さして見る夏椿

あずまし会（第51期・昭和23・24年卒）
・総 会

4年4月24日 番町グリーンパレス
参加 20名

例年のとおり時期、会場で行われ、遠

くは奈良、金沢、半田からも参加し、賑やかな会となった。

卒業45周年記念札幌大会が来年7月16日と決定したことに話が集中した。また、この2年間物故者もなくお互いの健康を喜び合い、多数が札幌へ行くことと誓い合って散会した。

ところが6月に入って幹事長清野達也・会員小島徹雄の両君が相次いで亡くなり、急に淋しくなりました。

（三國比左男記）

玄羊会（第52期・昭和25年卒）

兼松の専務・井上君が支社長でニューヨークへ行くというのと、故瀧川君が夢枕に立ったというので靈を慰めようと集まって以来、久しくニュースが跡絶えていた所、二上君の紫綬褒賞受賞の朗報が入り早速、日本倶楽部で5月30日、受賞祝賀会を開いた。

今回は全国版で連絡したので首都圏在住のほか、札幌、函館、郡山、新潟と40名近い会員が駆けつけ喜びを分かち合った。

「二上君の受賞は、われわれにとって喜びであり、大きな誇り」「飾らない人柄で、日本将棋界のために頑張っている」と祝福、長島君の謡と吉田君の木遣りくずして一段と盛り上がり、会から記念品を送った。二次会は、いまだ美貌衰えぬマドンナ成田慶の店を貸し切り、カラオケ大会が深夜まで続いた。



今年で全員還暦を迎えたというのに、その若さには（飲む喰う量）驚くばかり。猶、晶文社の中村君が黄綬褒賞受賞を辞退したと聞き、もう一度、祝賀会を開き一杯飲めるのにと皆残念がる。

訃報 清野達也君が肺癌で、谷口治有君が食道癌で七月逝去、冥福を祈り会より花と香典を送る。長島・福津が参列。

（福津達男記）
第58期（昭和31年卒）『屋形船にて同期会』

昨年五月十八日、首都圏在住者を中心とした同期会を、今回はちょっと趣向をかえ、隅田川の屋形船を貸り切って行った。当日のお天気を祈りに祈る日々、晴天に恵まれ天を仰いで思わず合掌した。越田先生、永長先生のお出でを賜り、33名の出席者、卒業以来三十五年という流れた年月を憶いつつ、食べて、飲んで、語って、船のゆらぎも快く春の夜風になびかれ楽しいひとときを過ごすことが出来ました。

先生方に負けず白髪まじりとなった教え子の顔寄せ合を眺め『昔の制服姿の皆さんの顔が彷彿と甦る』と、先生の喜びのお声、それぞれに歩んで来た道程を顧み、これからの残る才月をさらに意義ある人生とならしめたく語った事でした。申す迄もなく二次会はいくつかに分かれはしたもののカラオケ等々：先生方にお目もじ願えた俸せにも感謝し、どうぞいっしょもお元気でと念じお送り申した次第、佳き想い出が心の頁に綴られた日でした。

（鈴木恭子記）
◎函中三・三会（第60期・昭和33年卒）

我が函中三・三会東京支部の懇親会は、六月二十日（夕方6時から開催された。ところは、大東京のど真中東京駅、東



京ステーションホテル松の間である。場所は、阿部幹事の肝煎りである。

幹事は、いずれも万年幹事というところで、内藤、阿部、紅谷、女性は松田、水沢の5名で世話役。幹事の待ち受ける中を、つぎつぎと仲間が到着し、今回は総勢48名の出席となった。恩師5名にも案内を差上げたが、いずれも残念ながらご欠席である。一番身近な埼玉は志木にお住まいの吉田信一先生も、今回はご都合が悪かった。

紅谷幹事の司会で開会となり、内藤幹事長が平素の協力のお礼を兼ねて挨拶、次いで紅谷幹事より会計報告があり、異議なく承認された。乾杯は、一番遠く福岡から駆けつけた中角久典君の音頭で元気づく行われ、開宴となった。

賑やかに、またなごやかに、あちらこちらで1年ぶりの歓談が繰り広げられている。その合間に、今回が初参加の菊地宏美君と松井（旧姓三間）豊子さんの二人に、それぞれ一言ずつ挨拶や近況報告などをお願いする。それにもう一人、司会の紅谷幹事から「この懇親会の出欠の返信が来ないまま、しばしば顔を出してくれるユニークな越田正義君」と指名があり、一同笑いと拍手のうちに「いやぁどうも。チャランポランで申しわけない。今後ともよろしく。」と挨拶した。宴は、いつまでも名残りはつきないが、会場の時間制限があり、山根信子さんの主唱により、中部高校校歌を斉唱、大阪へ転動中の沼達賢一君の大締で、お開きとなった。

もちろん、毎年恒例の二次会は、四谷三丁目のパブパンドラに会場が設定済。話し足りない面々35名が繰出した。

まことに元気になる若き60期生、万才。また来年会いましょう。

◎第63期（昭和36年卒）
（北原耕太郎記）

高三の時に安保闘争があり社会の動きを肌で感じた時代に卒業して、昨々が30周年目でした。記念の同期会は平成三年八月三日、現在新校舎建築中の母校に集合。校内見学後バスにて会場の大沼「白樺ホテル」に向う。又一方では大沼国際CCにて4組のゴルフコンペを催し、終了後ホテルに合流。日が暮れかけた頃からキャンプファイヤーの火を囲んで懐かしのフォークダンスに興じた後、大広間にて宴会。北は帯広、西は岡山から集合した60余名。加藤、野田両先生のユーモア溢れるスピーチのあとはつきない思い



出話しがえんえんと展開され、最後に眠りについた人は朝の五時だったとか。

という事で30周年を迎えた昨年は、八月には吉田信一先生の還暦記念ゴルフコンペがあり、十一月には関西同期会が伊勢鳥羽への旅行をかねて開かれました。

平成四年の今年、東京での同期会が始まって10年目になり、六月二十七日（土）有楽町ニュートーキーにて開かれ40名の仲間が集いました。

今年の関西同期会は十一月十四〜十五日で飛騨高山への旅行会。これも第七回を迎え毎年次はどこへ行こうかと思案するのも楽しい。一泊なので忙しいともいえるが車中でビールを飲み、弁当を食べながら近況を語っているとあつという間

に着いてしまいが、かえって勿体ない気がしてしまう。

(小林嘉則記)

函中三八会(第65期・昭和38年卒)

本年度の函中三八会は、六月二十七日(土)、午後六時三十分より、東京・新宿東口の「パブ・セントラル」で行われた。

ここ数年三十人以上の出席があったが、今回は、月末で仕事が忙しい、本人自身あるいは同居している親が病気で目が離せない、親戚や教え子の結婚式に出席、その他いろいろな理由による欠席が多く、今回男性二十人、女性六人の計二十六人の出席者であった。

今回の案内状送付者は、百二十五人。そのうち欠席となるが近況報告をしてきた方々三十五人おり、これらのメッセージをまとめて清書し、出席者リストと一緒に印刷して、全員に配布した。

会では、最初に、再会を祝して乾杯を行った後、しばし懇談。積もる話に花が咲いた。続いて、全員の自己紹介と簡単な近況報告をお願いした。

「二十年振りとは言え、同じ高校を卒業した仲間だから、あえて、自己紹介をするまでもない」という声もあったが、今回の会場は、カラオケが歌い放題という好(?)条件もあって、自己紹介がだめなら歌を歌っても良いということで五十音順で全員に、カラオケ用のマイクを使って話していただいた。最初は、自己紹介と歌が半々程度は出るかと思われたが、結局歌ったのは一人だけ。後は全員が近況報告に終始した。

この後、カラオケ用の歌の本を回しては見たものの、それぞれお互い席を代えては、高校時代に戻って、同じクラスだっ



た友達の情報や、文化祭、修学旅行の思い出などの話に盛り上がっていた。

午後十時、会場の関係で、終了せざるを得ず、参加者全員の記念撮影を行い、次の再会を約束して閉会した。

しかし、一旦閉会したものの、なかなか別れがたく、約二十五人が近くの喫茶店に移動して二次会になったが、二次会でも汲めども尽きない話に花が咲いていた。そして午後十一時過ぎ、二次会を終了した(写真)。

(菅原大作記)

火ばしら会(第69期・昭和42年卒)

卒業後二十五年目の同期会平成四年六月八日、有楽町のニュートキョーにて第七回東京支部の同期会開催。

四月に白楊ヶ丘同窓会東京支部の名簿が発行された事により、住所不明だった数



名に連絡でき、加藤雅美氏、米木かをりさんの二名が初の出席。(ちなみにお二人とも独身でした。)加えて、函館の本部より佐藤真紀夫氏、福井(三上)節子さん、たまたまシンガポールからの帰途という品川均氏も飛入りで出席。卒業二十五周年にしては特別の企画もなかったが、総勢三十五名のにぎやかな会となった。

ここ一、二年は常連も決まっていた少々マンネリズムかな?と思っていた時期だったので、幹事としては、ちょっぴりうれしい会でした。

同窓会、同期会とも年に一度ずつです。なつかしい人、思いがけない人と旧交を暖めるチャンスですよ、思い切っって出席してみませんか。

(吉田淑子記)

札幌支部定期総会報告

札幌支部の第12回定期総会が、6月27日17時30分から「セントラルパーク」において開催され、東京支部長の代理として副支部長の三國が出席した。

総会は、三浦支部長挨拶、議長選出の後議事に入り、(1)事業報告 (2)会計報告 (3)監査報告がいずれも承認された。

次に提案議題として「終身会費制度の導入について」が上程され、質疑・応答の後、次年度から実施されることに決定され、総会は滞りなく終了した。

終身会費制度の内容は次のとおり。

65歳～69歳 2万円
70歳～79歳 1万5千円
80歳以上 1万円

なお、事業報告の中で、「支部ニュース」は今年度休刊であったことは、誠に残念ではあったが、幹事長はじめ幹事のご苦労が窺われた。

「東京支部だより」もそのような時期があったが、各期評議員・会員のご協力により休刊は免れてきた。

皆から心待ちされる「東京支部だより」にしていかなければと痛感した次第。

総会終了後懇親会に移り、新任の学校長野田義成先生(55期)、同窓会事務局長守下光越先生(54期)、函館支部幹事長犬島豊先輩(45期)、東京支部三國が祝辞を述べ、大先輩厨川勇氏(24期)の乾杯の音頭で開宴。ステージでは嘗て新宿の歌声喫茶「ともしび」で若者を引きつけていたメンバーによる歌・演奏が賑やかに会を盛り上げ、約百名の参加者を楽しませてくれた。

最後に校歌・同窓会歌斉唱、万歳三唱で20時閉会した。(三國比左男記)

会員短信

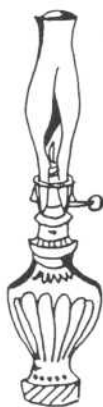
(昭8卒佐々木孝充) 9月13日より家

内と父母の古里、岩手県陸中海岸の旅に
参加、海猫の餌付、田老、竜泉洞、毛越
寺等を写真に収めました。10月2日より
一週間連続ボランティアのため欠席しま
す。(昭8卒藪越甲平) 光陰矢の如し、
卒業以来60年近く、著しい変化の時代を
体験し生き抜いてきて、今、健康で生き
ている喜びを感じています。(昭8卒上
田一郎氏の奥様) 大変おかれて申訳あり
ませんでした。上田一郎平成3年11月3
日渋川市の国立群馬病院にて肺癌のため
死亡いたしました。(昭12卒河村泰平)
会務御苦勞様です。其の後御無沙汰して
居りますが、なんとか健康を維持して居
ります。校友の御活躍を伺うに付け、心
強いものを覚えます。何卒御自愛の上、
益々の御活躍御清栄を祈ります。(昭13
卒山本安一) 京都野鳥の会、関西自然観
察会で山や離島を同年輩の人々と元気に
歩いてます。大阪に函館を思う会ができ
て、函中・商・工卒の人々の集いもあり
ました。(昭15卒三束惣一) 函中を卒業
してから早や50年余り、古稀も近い年齢
となりましたが、まだまだ若い人達に負
けて居られぬとの気構えで、目下設計
コンサルタント会社の総務関係を手伝っ
て居ります。(昭16卒中島三郎) 伊豆に
転居して一年余、自然に恵まれ健康で毎
日を暮らしております。折角の同窓会の
通知でしたが、遠方なので、夜の会合は
悪しからず遠慮させていただきます。
(昭16卒有田正也) 度々御案内を戴きま
すが、欠席ばかりで申訳ありません。新

幹線で2時間程の距離ですが、年とる毎
に名誉職的雑用のみ増えて、年2回日本
精神病院協会々議に出席するのがやっと
です。在京の皆様御健勝を心よりお祈
り致します。(昭16卒佐藤忠男) 時々上
京していますが、仲々同窓会には顔を出
す機会もなく失礼しています。名古屋に
は函中出身の方も少なく、寂しいです。
今のところ現役でやっています。よろし
く。(昭16卒井筒吉彦) 9月14日、函館
で卒業50周年の同期会が開かれ行って参
りました。(同日、白楊ヶ丘同窓会総会
が開催されていたとのこと) 50年ぶりに
顔を合わせた友も2人いて、楽しい一夜
を過ごしてきました。(昭18卒中上耕一氏
奥様) 平成3年1月14日入院中病院にて
亡くなりました。長い間色々とお世話に
なりました。有難うございました。(昭
20卒坂本裕美) 東京白楊だより、いつも
楽しく読んでいますが、季刊発行を希望
します。いろいろむずかしい事があるか
と思いますが、期待しております。(昭
20卒武田好司) 9月14日の同窓会、15日
の48期の同期会とも、公務の都合で参加
できませんでした。如何にも残念に思っ
ています。何時の日か幼き頃に育んでく
れた函館に、2泊3日位で行きたいと思
います。(昭29卒佐藤忠之) 幹事の皆様
には大変お世話になっております。感謝申
し上げます。10月8日の同窓会には出席
しなかったのですが、単身赴任中で出来
ず、残念です。帰京の節は再会出来る事
を楽しみにしています。(昭30卒信太延
一) 毎年「東京白楊だより」をいただき、
多数の同窓諸氏の御活躍をみるにつけ、
まだまだ頑張らなければと思うこの頃で
す。事務局諸氏の努力に感謝致します。

(昭33卒伊藤紀子) 白楊だよりをありが
とうございました。読みごたえがあり、
編集の方々の情熱と努力が伝わって参り
ます。同窓会にはまだ出席したことは有
りませんが、白楊だよりの親睦大会便り
を読んで、参加したような楽しさを味わっ
ております。(昭33卒金子美智子網走在
住) 今年初めて東京の同期会に参加させ
て戴きました。東京には母と子供がおり
ますので、年に二回は上京いたします。
今回の同窓会には出席できませんが、又こ
の次、よろしく願います。(昭33卒
中角久典) 九州に転勤し4年目になりま
す。遙か古里を想いながら、頑張ってい
ます。(昭37卒谷岡豊) 電源開発のため
頑張っています。同窓の皆さんの御理解
をお願い致します。(昭37卒村山久二) 関
西在住期間の方が函館におりました時
よりずっと長くなりましたのに、何時ま
でも函館の人間という思いが抜けません。
東京支部には顔を出す機会が、まずあり
ませんが、ずっと集って頂きたいと思っ
ております。(昭38卒尾崎文彦) 昨年カ
ナダ・ケベック州ラバール大学に一年間
客員教授として出かけてきました。子供
達も当校生になり、時々自分の函中時代
が重なって見える時があります。(昭38
卒長谷川百合恵) いつもなつかしく拝見
しています。役員の方の御苦勞もしのばれ
ます。来年は出席させて戴こうと思っ
ますのでよろしく願います。(昭
41卒丸山隆) いつのまにか卒業して25年、
最近函館を訪ねる事もなくなっていま
しました。とにかく忙しい、毎週の出張
です。(昭41卒福地和憲) お世話様でご
ざいます。住所が変更になりました。↓
札幌市豊平区旭町6-1-10。札幌

に支部がありましたらお教願いたいと思
います。(昭41卒永田春子) 初めて連
絡を頂きました。今夏帰郷し同期会に出
席。「オジサン、オバサン」になった皆
さんに逢い、複雑かつ懐かしい想いでし
た。自分の息子が大学生となり、もはや
私もオバサン...と思われられておりま
す。来年はきつと出席させて頂きます。
ごきげんよう。(昭42卒齊藤裕子) 忘れ
た頃にやって来る白楊会の便り、せわし
い東京生活を送っている私には、ふと故
郷を思い起こす事のできる唯一の時とな
り、感謝しております。(昭42卒奥野政
博) 役員の皆様方の御努力で、毎年盛大
な親睦大会を開催して頂き、ありがたう
ございます。毎回種々の趣向を企画され
ていますが、若年層の出席を促す為、会
報の一部で前回の様子を紹介しては如何
でしょうか。(昭43卒石黒秀喜) 70期同
期会の幹事組織が確立され、久しぶりに
函館で同期会を開催するという案内をい
ただきました。残念ながら欠席ですが、
きつと大盛況だったと思います。(昭47
卒中沢裕) NTT伝送システム研究所に
勤務。将来の伝送システムとしてのATM
にかかわる諸課題について研究中。
(昭51卒岡部あさ子) 事務局の皆様ご苦
勞様です。久しぶりに同期の岩崎加代子
さんと渋谷をぶらつき、函中時代の友人
達の話をしました。帰宅すると白楊だよ
りが入っていて、また電話で話す始末。
今日は一日函中日和でした。



「勝負運とは？」と信仰

34期 伏見 滋夫

私は小学校五年生より少年野球の選手で、勉強と両立する様にやっていた。

昭和二年に道立函館中学校（現中部高）に入学、野球部に入った。同六年に投手でキャプテンとなった春にはじめて函館新聞社主催で東北、北海道中等学校選抜野球大会が行れ、二十校余りが参加した。函館中学は幸運にも準決勝まで順当に進み、遂に決勝戦に望んだ。相手は優勝候補筆頭の私立札幌商業であり、マスコミの予想も断然札幌商業の有利を報じていた。午後一時プレーボール、決勝戦は予想を裏切り七〜六で函館中学の一点のリードのまま九回の裏を迎えた。札幌商業の攻撃は一死でランナー一塁、バッターは二番驚頭選手、カウントは二〜三となり、強引にヒット、エンド、ランに出て来た。（裏をかいていていっきに勝負をつけようとして来たのだ）

吉川捕手のサインはアウトローだった。うなづいて伏見投手が投げた！

心に八幡神社の御加護を信じて投げたが、手元が狂い、インコースのハイボールになった！だが向こうは強引に振って来たので三振！捕手の二塁送球がいい球でランナー二塁でタッチ、アウトでゲームセット！

遂に函館中学校は初めての選抜大会に優勝したのだ。スタンドを埋めたファンは大歓声でうなり声をあげていた。

もしこの時バッターが振ってなければ四球で一死、一、二塁のランナーで大ピンチになるところだった！

ツキと云うことだ、これも実力のうちだよと先輩が云っていた。

それ以来私は今でも八幡神社を信じており、戦争（徐州攻略戦）でも八幡さんに助けて貰い、現在まで命を永らえております。

媒酌人の記

54期 佐藤 正郎

「……新郎S君が今日のためにと届けてくれた履歴書をよく読んでみますと、志望動機の欄に△貴社の営業種目の多彩さに関する興味▽と書いてある。これはまきれもなく、五年前彼が当社を受験したときの履歴書のコピーであります。このことからS君の性格について二つのことがわかります。

ひとつは、物持ちの良さであります。用済み履歴書を五年間も保存することは尋常ではありません。

ふたつめは仲人に対してそのコピーで間に合わせる行為で、これは良く言えば△合理性▽、普通に言えば△不精▽であります。そして△物持ちの良さ▽と△不精▽が合体すれば△乱雑▽となります。

先日お二人が拙宅へ見えた折、私は新婦Y子さんにこう助言いたしました。

△結婚前に新居を点検すべきである。なぜなら、新居が巨大な屑カゴと化している恐れがあるからである▽と。……」

今年六月、明治記念館の一室、披露宴の席上である。中央に新郎新婦、それをはさんで私と妻が立つ。頼まれ仲人の挨拶である。

五年前、中部高卒業三十五年を記念し

て、伊東で全国版の同期会を行った。そのとき隣に座ったのが新郎の母J子さんであった。三十五年ぶりの再会に話が弾み、長男のS君が就職活動に入るといいうので、それならウチを受けてみたら……という話に発展し、その結果彼は当社に入社した。そして今日、社内で見染めたY子さんとの結婚式に、私が媒酌人として登場することとなったのである。

見渡すと会場の隅にJ子さんの心配そうな顔が見える。ふっといたずら心がわいた。「……よく考えてみますと、物持ちの良さも乱雑さも小児性をたっぷり備えた楽しい男であり、配する新婦Y子さんは短大の幼児教育学科を卒業した小児教育の専門家であります。まさに天の配剤とも言うべき絶妙の組合わせであります。

ところでS君の母J子さんは、私の高校時代のクラスメイトであります。高校時代のJ子さんは、気品があつても静か、小児性のカケラも見せないオトナでありました。したがってわれわれ悪童には、近寄り難い雰囲気をもった女学生でありました。

しかしS君の小児性が遺伝の結果であるとすれば、J子さんもまた小児性をたっぷり備えていた筈であります。四十年前にそれがわかっていけば、近寄るすべがあつた筈だと、いまちよっぴり残念に思っているのであります……」

四十年前の学園生活が色調豊かに脳裡をよぎる。木造二階建の校舎。すぐに鉄拳をふるう先生。高校二年生で突然男女共学になったこととまどいと楽しさ。そして顔を合わせたとたんに時空をこえて高校生にもどれる同期生の絆……

今年十月、四十年周年記念全国版同期会が大沼で行われる。

「ロンドンの小学校雑感」

64期 片岡 洋子

昨年四月に、息子二人と共に十数年ぶりにロンドンを訪れた。ロンドン大学での一年間の研修を行うためであった。

空港の外は東京の真冬並みの寒さであった。エアバスを待つ間、どんより曇った空から雨がポツポツ降ってくる。これが英国の天候の典型であり、その年は特に六月迄寒い日が続き、朝晩の暖房が欠かせなかった。それでも自然は誠実であり、アーモンド・チェリーや八重桜が街路を彩り、家々の庭にはバラが咲き匂っていた。

ロンドン西部ウェスト・アクトンにある日本人学校の近くに家を見つけ、長男が通うことになった。そのあたりは数年前にロンドン北部から日本人学校が移って来て以来、日本人家族が多勢住むようになり、それ迄多かつた黒人は他の地域へ移り住むようになったという。借りたフラットはロンドンには一般的な七、八十年はたつ古いレンガ造りであり、日本でもなもう二軒分の家が建ちそうな、広い庭付きであった。息子たちは隣家の英国人少年たちと、庭で野球やボール蹴りをしてよく遊んでいた。近くにはチューダー朝スタイルの、白壁に黒い木の枠が組まれたフラットが建ち並ぶ、趣ある一画もあった。

当時満五歳であった次男は現地校へ通うことになった。それは三〜七歳児のためのファースト・スクールであり、生徒数二百余名の小さなものであったが、日本人がその四分の一を占めていたことには大いに驚いた。当然授業におけるコミュ

ニケーション・ギャップは深刻な問題であり、この学校に子供を通学させている日本人母親のほとんどが週に一度、ボランティアとして一〜二時間先生のアシスタントを勤めており、私自身もその例外ではなかった。

クラスの人数は三十名程度であり、日本の小学校と大差はない。授業が始まる前にクラス全員を前にして、生徒が二・三分間のスピーチをする時間がある。その内容は生活体験が主である。このスピーチは各生徒の自主性に委ねられており、よく手を挙げる子もいれば、全く手の挙がらない子もいた。子供の積極性、発表能力を培う良いやり方だと思った。又、能力別指導が行われており、レベルの高い数人の生徒たちによる一グループが教室の一隅を占めていた。一クラスに二人の先生がついていることが多かった。生徒の親の出身地を示す世界地図が教室の壁に貼ってあり、それを見ると英国以外に九カ国が数えられた。インド人の先生も教えており、南アフリカ出身の教育実習生もいた。言う迄もなく英国は今や多民族国家、多国籍文化の国であり、次男の在籍する学校は正にその縮図とも言えるものであった。英語を全く解さなかった次男も次第に英語に慣れ、膚の色の違いを越えて友達を増やしていった。子供のもつ順応性、適応能力には見事なものがあり、異文化体験を通してそれらを獲得していく様が見てとれた。

昨年英国でジャパン・フェスティバルが開催され、日英関係が大いに盛り上がった年であった。又、日本企業の英国への進出には目を見張るものがあった。テレビのオープン・ユニバーシティでもい

くつかの日本企業が取り上げられていた。地球の反対側から日本を眺めることのできた一年でもあった。

(昭和三十七年卒 旧姓 阿部 東京家政大学助教授)

“第16回親睦大会”

- ・とき 平成4年10月15日(火) 午後5時より
講演 デザインの活かし方
講師 平野拓夫(51期)
懇親会 午後6時〜9時
- ・ところ 東京青山会館 地下鉄表参道駅下車徒歩5分
- ・会費 7,000円(当日ご持参下さい)
“活力ある集い”にご参加をお待ちします。時流に合った有益なお話しが伺えると思います。

計 報

第38期(昭和11年卒業)高尾正保氏が、平成4年3月13日心不全で逝去された。評議員として同窓会運営に永らくご尽力いただきました。

第35期(昭和8年卒業)宮本武雄氏が、平成4年1月24日入院先の病院にて肺癌で逝去された。晩年、多くの絵を画かれ、示現会々友となる。

平成3年度東京支部会計決算書

収入の部		支出の部	
前年度繰越	2,487,950	総会費	1,342,255
年会費(152名)	1,064,000	会報費	700,566
年会費(839名)	1,678,000	事務費	18,253
利息	75,975	議費	181,488
雑収入	58,000	雑費	165,100
		次年度繰越	2,956,263
計	5,073,075	計	5,363,925

東京白楊だより第6号表紙(連絡船がみえる函館湾の絵)に協力していただきました。
両氏のご冥福を謹んでお祈り申し上げます。

東京白楊だより



お知らせ

東京支部のテレホンカードを作成しました。
総会での講演者平野拓夫氏(51期)のデザインで、地はクリーム色です。五百度数です。総会当日八百円でお分けします。

編集後記

今年から広報の仕事をするにあたり、改めて同窓会について考えさせられる事になってしまった。今までは親睦会に出るだけで特に何かを思っていたわけではなかった。しかし支部の仕事は何年もやっておられる諸先輩の献身さや人の関係の広さとか情報量の豊富さに驚いているうちに、何気なく感じる奥深さを同窓会の中に見る様になってきた。あまり仕事に慣れ切らない内に青くさい問いかけのつもりで、同窓会について考える”を書いてみました。果たして会員の方に反応してもらえるのか、ちょっと不安。ご意見、ご提案有り次第、即実行の構えである。

広報担当 小林

発行 白楊ヶ丘同窓会東京支部
編集責任者 小林 嘉 則
支部事務所

〒一六〇 新宿区新宿一―四一六 (御苑ビル)
スペース販売(株)内
TEL 〇三(三三五二)六二八一